

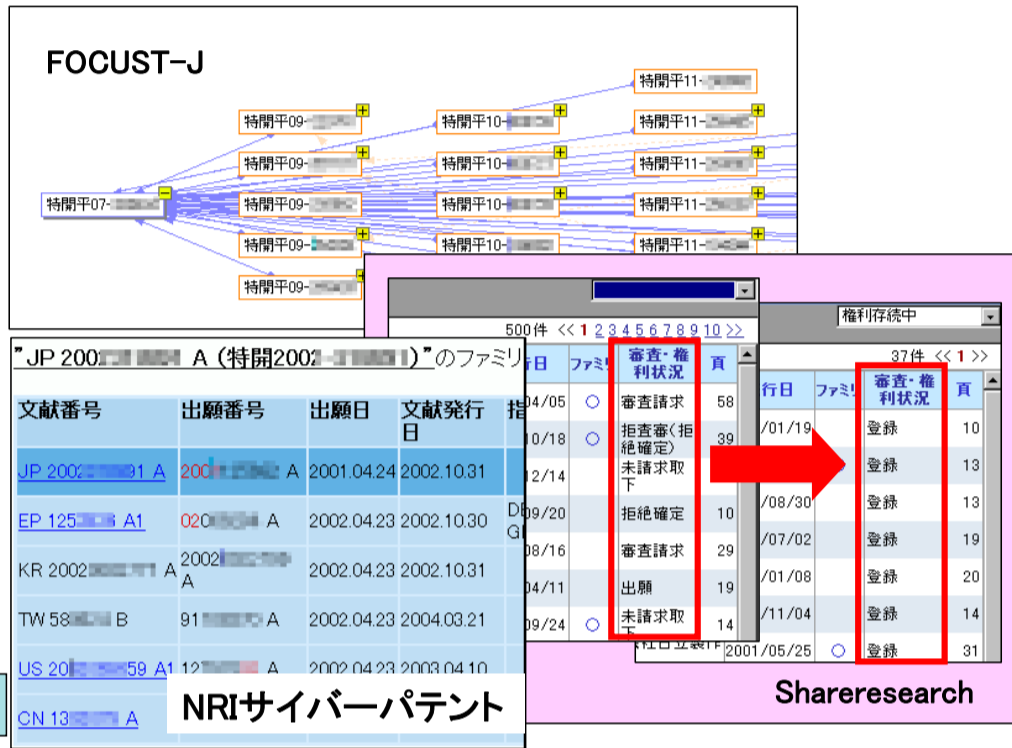
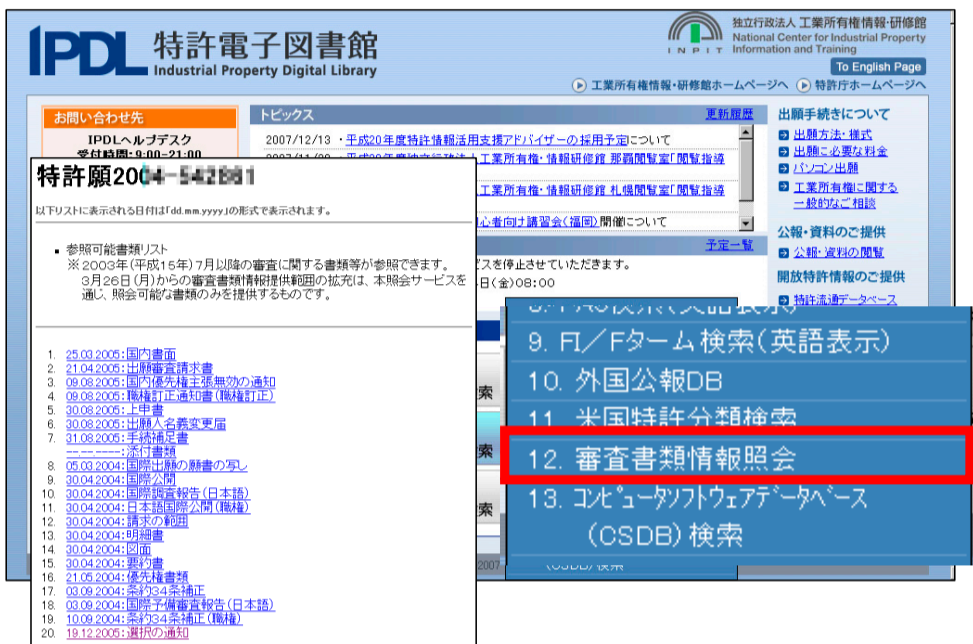
# 特許情報検索DBの理想型に関する研究

## テーマ設定の背景

- ・特許庁より無料の特許検索DB(特許電子図書館)が開放されているが、メインDBとしては利用しづらい面があり、多くのユーザは有料DBをメインDBとして検索。
- ・各ベンダから有料DBが数多く提供されているが、理想と呼べるDBはなく、ユーザは目的や料金を勘案し選択して利用している。
- ・平成26年に特許庁の業務・システム最適化計画に基づき、特許電子図書館が機能を充実する予定である。

## 本ワーキング活動の目的

- ★特許庁  
業務・システム最適化計画を推進するなら、真にユーザが求めている機能を提供して欲しい。
  - ★ベンダ  
特許電子図書館の機能が充実すれば、死活問題となるので、新機能開発を行なうはず。
- ⇒ユーザが真に求める機能を明らかにし、特許庁及び各ベンダに提供を促すこと。



特許電子図書館: <http://www.ipdl.inpit.go.jp/homepg.ipdl>

## 特許電子図書館と有料DBの違い(一部)

特許検索ができると言っても、一般的な有料DBで提供されている基本機能が、特許電子図書館では提供されていない

	「要約+請求項」のKW検索	公報印刷	包袋入手	「本文全文」のKW検索	データのDL	'92年以前のKW検索	経過監視(ウォッチング)	生死情報での検索	ファミリー表示
特許電子図書館	○	○	○	×	×	×	×	×	×
有料DB(A社)	○	○	×	○	○	○	○	○	×
有料DB(B社)	○	○	×	○	○	○	○	×	○
有料DB(C社)	○	○	×	○	○	○	○	○	×

## 本年度の活動

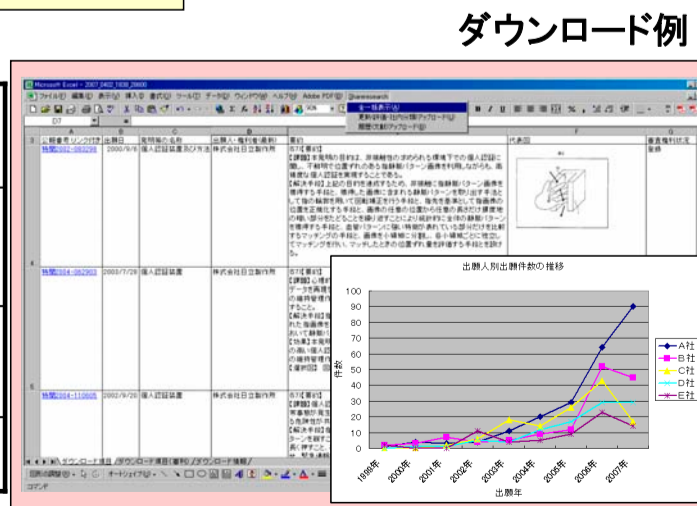
特許電子図書館でしか提供されていない

有料DBでも、ベンダにより提供するサービスが異なり、差別化を図っている

1. 理想のDBとして提供して欲しい機能の抽出
2. 機能を抽出するにあたり、各ベンダとの意見交換会を開催(5社)
3. 抽出された機能について、ユーザ対象としたアンケートにより要望の強さを測る。

## ワーキング内で抽出された機能の項目数

現在、アンケート収集中	検索機能	表示機能	印刷機能	カスタマイズ	ダウンロード	その他
特許電子図書館での提供が強く望まれる機能	5	1				2
特定の有料DBで提供されている優位な機能	15	6	3	2	7	6
現存するDBにはない機能	15	4				3



- ・精度・効率良く検索できる機能
- ・発明者でも検索できる機能が多い

最近では『特許の価値評価』『他社特許分析』が各社で行なわれているためか、ダウンロードについての要望(件数、速さ、項目など)が目立つ

# 知的財産情報検索委員会活動方針

## 企業の国際競争力強化のための 知的財産情報の活用に関する研究と提言

### 本年度の他テーマ

- 経営戦略に生かすための特許解析手法の研究
- 特許調査担当のあり方に関する調査と提言
- 分類、特にIPC8版に関する検証と提言
- 特許情報の共有化・管理・活用に関する研究

### 最近発行の資料

- ・SDIの効果的運用方法に関する研究(No361:2007年10月)
- ・特許マップの活用に関する研究(No349:2007年2月)
- ・日本特許データベースの比較検討(No346:2006年12月)
- ・引用情報の活用に関する研究と提言(No345:2006年12月)
- ・Fターム付与に関する研究と提言(No344:2006年9月)

### ワーキング内で抽出された機能の項目の一例

#### ①同時に使用されている頻度が高い分類、KWも含め検索

検索条件: 検索項目を選択しキーワードを入力してください。

検索論理式

式	検索項目	キーワード	
1	本文全文	弾性体	一致

「『弾性体』を検索する人は『ばね』『スプリング』も検索しています。」

思いつかなかった同義語を示唆してくれるので検索モレを防ぐ効果がある

#### ②実施権情報の表示or検索

出願記事	特許 2003-***** (平15.3.**)	出願種別(通常)
公開記事	2004-***** (平16.10.**)	
発明の名称	無線受信方法、無線受信機及び無線受信プログラム	
出願人	株式会社▲▲	
発明・考案・創作者	**慎一、池* 哲臣、*下 文康	
公開・公表IPC	国際分類 第7版 H04B 7/26	
出願細項目記事	査定種別(登録査定) 最終処分(特許19.8.17)	
登録記事	***** (平19.8.**)	
<b>実施権記事</b>	<b>専用実施権(平19.9.1) ○○株式会社</b>	

原簿を確認しなくても、実施権状況を知ることができるので、案件の判断材料となる。

#### ③キーワードの集中している箇所が表示

HitマップDescription - US200722354A

NAVOTUBE  
CATHODE  
DISPLAY

探しているKWが集中している箇所がわかるので、長い明細書の中で、関係のある箇所から読むことができる。

<検索イメージ>  
(出願人:株式会社▲▲) \* (専用実施権: 20070101:20070930) = ヒット数:3件

2008年度にCD-ROM資料として発行予定。乞ご期待!



# エンドユーザー向けの特許情報検索教育についての研究と提言

## ★テーマ設定の背景

特許情報は、研究開発・企業活動にとって不可欠  
技術資料(先行技術調査他)／他社情報(抵触性調査他)

## ★エンドユーザー向けの検索環境が整ってきた

専用回線→インターネット環境  
専門DB／企業内DB→特許庁の情報公開・特許DBの増加  
→安価で良質な特許情報の入手が可能

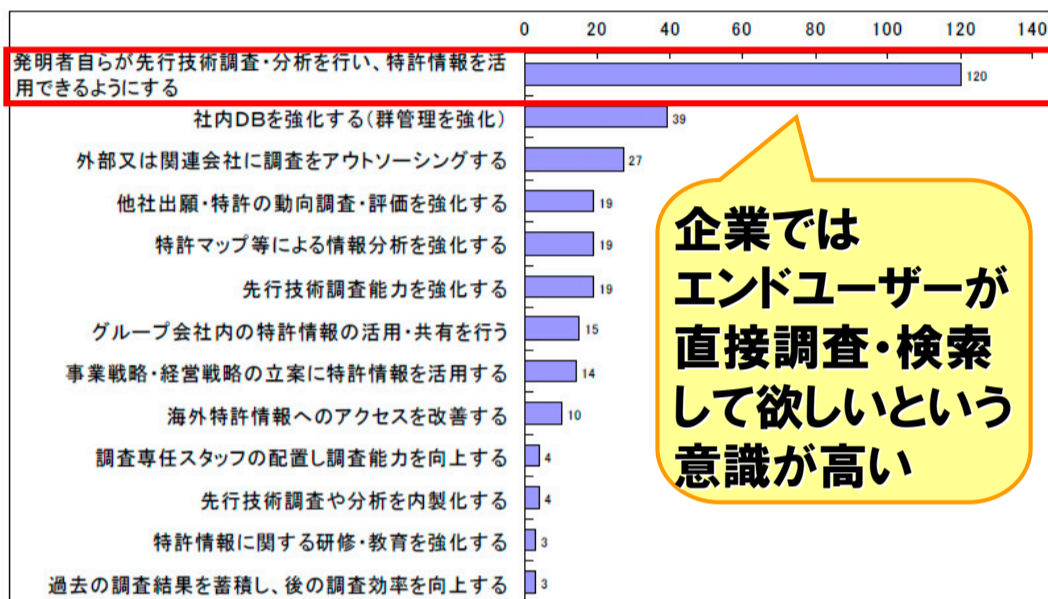
⇒エンドユーザーによる検索機会の増加 **本当に大丈夫？**

## エンドユーザーが調査する上での課題は？

- 検索の漏れ・間違い・ノイズ等の多発
- 特許検索はネット検索と同じ？
- 特許情報の基本的知識は？  
(登録と公告？権利期間は？請求項は？)  
⇒やっぱり情報調査・検索の教育は大切！！
- ☆エンドユーザーとは・・・研究技術開発者

## 「知財戦略事例集(2007年4月特許庁発行)」付録 アンケートにみる特許情報の活用に対する意識

図1 特許情報の活用に関する将来像(理想像) (自由記載)



**企業では  
エンドユーザーが  
直接調査・検索  
して欲しいという  
意識が高い**

## WGメンバー各社における エンドユーザー向け調査・検索教育の実態

研修の実態	悩み
○一般特許教育の一部(検索に特化していない)	○エンドユーザーの調査への意識は薄い
○特許電子図書館の使い方教育のみ	○教育者・被教育者いずれも時間がない
○特許担当者によるOJT	○担当者によって教育内容が異なる
○頻度も年1回数時間～数日・不定期までマチマチ	○調査技能が身につかない
○サーチャーの存在／非存在でエンドユーザー調査に対する考え方は異なる	○端末での実務研修ができない

## グループ(or ワーキング)活動の問題点

- エンドユーザーにおける特許調査の位置づけは企業によって異なる  
⇒各社共通の教育カリキュラムの作成は困難
- 特許情報を取り巻く環境の変化  
⇒毎年の改訂は困難

## 本年度の活動方針

- ★エンドユーザー教育のカリキュラムモデルの立案  
⇒教育現場でのチェックツールとしての活用を図る(漏れの無い教育)

◎教育項目を4つに分類。更にブレイクダウンして内容を明示。

- ①特許調査の基礎知識
  - ・特許制度概論
  - ・制度紹介
  - ・特許・実用新案の流れ
  - .....
- ②特許調査概論
  - ・特許調査の種類
  - ・技術動向調査
  - .....
- ③特許調査の項目
  - ・特許分類
  - ・IPC
  - ・FI
  - .....
- ④特許調査の実態

## 調査目的と特許教育のマトリックス化

◎考える調査のケースを列挙  
簡易検索(番号、ファミリー等)、特許性判断、侵害判断、.....

大項目	中項目	小項目	小小項目orオプション	検討内容	目的別1:公報を入手したい	目的別2:生死情報の判断
特許調査の基礎知識(特許調査の話の前に)	制度紹介	制度紹介	特許の流れと情報	特許の意義および特許情報が有益な技術情報であることの説明。導入部分。分割も含めること		
			権利範囲の考え方	請求項の読み方、選択発明、利用発明。抵触と特許性。補正の存在		
	特許実案の流れ	特許実案の流れ	出願～公開～登録～消滅まで	公報の種類を後で述べるなら公告制度や新案・旧案等の知識もあったほうがよい。 先願主義、先発明主義		
			新規性	まずは同じものがあるかを検索するのが大切。		
	特許要件	特許要件	間接侵害	侵害防止調査では必要		
			均等論	侵害防止調査では必要		

調査目的と教育に必要な項目を選択しやすい表としてまとめる。

**2008年度【知財管理誌】投稿予定。乞うご期待！**